



大宮教会の皆様、

主のご降誕、おめでとうございます。

今年も私たちは喜びと希望の中で、教会と共に降誕祭をお祝いします。

小教区の共同体と共に主のご降誕をお祝いする時間と機会を与えてくださった神に感謝いたしましょう。私たちと同じく今年の降誕祭をお祝いすることを楽しみにしながら、その前に神に召されて、この世から去って行った方もおられます。

小教区の連帯や奉仕の精神の中で、彼らの姿は私たちの心の中に残っています。彼らは今は身体的には私たちの小教区と一緒に歩いていませんが、精神的には共に歩んでいると思います。

全世界の教会と共に降誕祭を祝う大宮教会の共同体は、高齢や病気で教会に来られない方々のためにお祈りをささげます。2021年のクリスマスミサは、大宮教会の共同体は教会に来られる方々と、教会に来られない方々、神の愛の中で召された方々のために、兄弟姉妹的な交わりの中で、お祈りをささげましょう。これは私たちの共同体が歩んでいる連帯と愛の軌道を示します。

教会の暦の中で、降誕祭は二つの荘厳ミサの中の一つです。言うまでもなく、降誕祭はキリスト者である私たちにとって、大きな喜びです。この喜びは未信者にも広がっています。クリスマスが近づくと、教会外のあちこちでイルミネーションやクリスマスツリーが飾られ、クリスマス会も催されます。

昨年と同様に今年もコロナの影響で、三密を避けるため、私たちの小教区はクリスマスのパーティーをしないことにしました。それは残念なことですが、皆さんの健康と小教区の最低限の活動のために、感染対策に配慮せざるを得ないのです。

主のご降誕をお祝いするときに、私たちは受肉の神秘をお祝いします。受肉の神秘とは、神の御ひとり子がこの世に生まれ、私たちの間におられることです。

主の天使は羊飼いたちに次のように告知知らせました。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」

(ルカ2・11)。

救い主であるイエスは人間の歴史の中に入って、私たちと同じ地球の空気を吸ったり、私たちの心の悩みや弱さや病などに共感されました。受肉の神秘がなかったとすれば、苦しみの神秘も死の神秘も、復活の神秘も昇天の神秘もなかったはずです。一言で言えば、受肉の神秘は他の神秘の土台となっています。

この神秘はキリスト者の喜びと希望ともなっています。

現在、コロナの終息がまだ見えず、新しい変異ウイルスであるデルタとオミクロンが発生しています。日本を含め、世界の国々と地域にこのウイルスが広がってきています。この大変な状況の中でも、私たちの小教区は降誕祭をお祝いすることが出来ることを、神に改めて感謝いたしましょう。

天使が羊飼いたちに「主のご降誕」を告知知らせたように、神の御ひとり子は私たちのためにこの世にお生まれになりました。救い主はお生まれになった瞬間、この地球が神の愛に包まれました。クリスマスに当たり、私たちは単にイエスがお生まれになった出来事を記念するばかりでなく、神の愛の種が一人ひとりの心の中に蒔かれたことを忘れてはならないのではないかと思います。

高齢や健康上の理由などから今年のご降誕ミサに与れない方々は、小教区の共同体と心を合わせて、一つの共同体として、お互いのために、神にお祈りをささげましょう。そうすることで、私たちの共同体は一つになり、神の愛に包まれるに違いないのです。その日は私たちにとって、愛が生まれる日でしょう。

ここで、ある司祭の書かれたことばを思い出します。

「家族と食卓を囲みながら、
思わず感謝の涙がこぼれたなら、
苦しんでいる友を思い出し、
その人のために何かせずに
いられない気持ちになったなら、
その日こそわたしたちのクリスマス、
わたしたちの心に愛が生まれる日、
それがクリスマスなのです」。



2021年12月3日
大宮教会主任司祭
谷 国定

<信徒委員会からのお知らせ>

1. 今後の主日のミサについて

新型コロナウイルス感染症対策として引き続き現在の3グループによるローテーションを継続いたします。

月	日	曜日	グループ	司式
12月	19日	(日)	B	ジャック神父様 (第3日曜日)
	26日	(日)	C	谷神父様 (第1、第4日曜日)
1月	2日	(日)	A	谷神父様 (第1、第4日曜日)
	9日	(日)	B	集会祭儀 (齋藤助祭)
	16日	(日)	C	ジャック神父様 (第3日曜日)
	23日	(日)	A	谷神父様 (第1、第4日曜日)
	30日	(日)	B	未定

Aグループ	大宮区・西区・中央区・桜区
Bグループ	見沼区・緑区・北区
Cグループ	岩槻区・伊奈・原市・白岡・蓮田・久喜

※谷神父様は現在大宮、上尾、館林の3教会を担当されています。
今後第2日曜日は齋藤助祭による集会祭儀、第5日曜日は谷神父様、齋藤助祭、矢吹助祭が交代で担当され、谷神父様の時はミサとなります。

2. 2022年予算案について

今年も信徒総会を開けないため、11月の信徒委員会で審議し、修正したものを最終版として教区に報告いたします。クリスマスミサまでにプリントを用意しますのでお持ち帰りください。ご質問がありましたら、財務部にお尋ねください。

3. 2022年 信徒会長について

信徒委員会で協議し、来年度の会長は見沼区の齊藤政行様にお引き受けいただくことになりました。石黒会長、3年間本当にお疲れさまでした。

4. クリスマスマサのプレゼントについて

ロビーに回収箱を用意しました。ご用意可能な方は、日持ちのするお菓子、小さな雑貨など、個包装してお入れください。クリスマスミサ後に、他の物をお持ち帰りいただきます



5. 元旦ミサについて

12月12日（日）締め切り、当日貼り出しの予定です。

6. 財務部より

財務部員として奉仕して下さる方を急募です。月2回、ミサ後に献金、教会費の集計、帳簿記入、出金等が主な作業です。本当に厳しい状況で、最悪の場合、献金も教会費も回らなくなります。

7. 典礼部より

クリスマスイルミネーションと馬小屋の撤収を1月8日(土) 午前10時から行います。
お手伝いできる方、どうぞよろしくお願いいたします。

<今期で信徒会長を退任される石黒会長より>

信徒会長退任にあたって

西区 石黒智泰

この12月をもちまして、3年間務めさせていただいた信徒会長を退任することになりました。

振り返ると、3年前に会長を引き受けたときには、コロナウィルス感染症対策で教会が閉鎖されることになることなど、夢にも思いませんでした。納涼祭、復活祭やクリスマスのパーティー、中嶋神父様・高瀬神父様の歓送会、ジャック神父様の銀祝のお祝いなど、会長1年目にはいろいろやったことが、随分昔のこのように感じられます。

結果的に会長だった期間の半分以上、昨年の5月頃から今に至るまで、主日の公開ミサ中止や、65歳未満のみ年齢制限、グループ別のミサの人数制限など、これまで経験したことのない形態での運営でした。様々な行事や自主活動グループの活動が中止され、現在もそれが続いています。私たち大宮教会の信徒にとって、不完全燃焼どころか燃焼する機会を奪われた1年8ヶ月だったと思います。私は、教会の行事がなかった分、楽だったと言われればそうかもしれませんが、その一方で普通はやらなくてよいようなことをやらざるを得ませんでした。行き届かないところも多々あったかと思いますが、コロナ禍の特殊事情と考え、ご容赦いただければと思います。

信徒委員会各専門部の皆様、書記の薄葉さんにはことのほかお世話になりました。この教会を日々支えて下さっているのは、営繕、財務、総務受付、お掃除、お花や香部屋の準備、広報などなど、普段見えないところ奉仕して下さっている皆様のおかげだということが、会長をやっていて改めて気付きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、私が何とか会長を務められたのは、妻や息子の協力のおかげでもありました。このことにも感謝したいと思います。

2022年は見沼区の斉藤政行先生に会長をお引き受けいただくことになりました。私は副会長として微力ながらサポートさせていただきます。近い将来、ミサの人数制限がなくなり、一緒に歌で神様を賛美できる日が来ることを期待しております。感謝のうちに。



<成人養成部 zoom カテキズム シリーズ1を終えて>

- 成人養成部ではオンラインによるカテキズムの勉強会を7/1から11/7まで、月に一回ずつ、(毎回1時間半)5回に分けて行いました。今回は第一シリーズで信仰宣言についてでした。参加された方の感想をご紹介します。
- ・教会への行き帰りの時間が節約でき、人数が多くてもグループに分かれて分かち合いができるので、足腰が弱っても参加できる。
 - ・内容については、難しいと感じた箇所もあるが、少しずつポイントを絞ってやっていけばいいし、時々抜けてり、繋がらないことがあっても、毎回何かしらの学びができると感じた。
 - ・前もって送られてくる資料のテーマが大きく、目を通すのが大変な時もあったが、分かち合いで違った視点での捉え方に気づくこともあり嬉しかった。
 - ・「人は神を忘れたり、拒絶することはあっても、神は全ての人に神を求めるよう呼びかける事をおやめになりません。神を見つける方法はたくさんあります」という言葉を思い出した。
 - ・コロナ禍で自由に行動できない日々だが、ちょっとした自然の移ろいに神の創造の神秘を見いだしたり、疎遠になっていた友人とLINEで大切に深くつながることができたり、と、新しい方法で神を求めるよう呼びかけられていると感じた。
 - ・カテキズム、という堅苦しいイメージで、自分から積極的に学ぼうとは思わなかったが、今回参加してみて、「ああ、そういうことだったのか」と納得したことや、知っているとっていたことが違う意味だったり、多くの発見があり、もっと学んでいきたいと思った。
 - ・もっと多くの人に体験してほしいと思う。zoomを使いこなせない、と敬遠している人が多いと思うが、それほど難しくないの、使い方を教えて、お年を召した方こそ使いこなせるようになると便利だと思う。



サモア～主に呼ばれて (4)

1990年5月の連休明けから派遣候補者の研修が始まりました。まだこの段階では派遣候補者で、派遣されるとは決定されていませんが、研修は始まりました。候補者は一人だったので、てっきり一人で研修なのかと思っていたら、海外などに派遣される修道会のシスターも加えての研修でした。5つの修道会から6人のシスターと、信徒の私の合計7名の5週間の研修でした。

平日は座学が多かったと思います。様々な立場の神父様から「宣教とは？」や海外事情などの話を聞きました。週末はフィールドワークのようなものも計画されていて、山谷や川崎の在日韓国・朝鮮人のコミュニティ、フィリピンからの信徒宣教者との交流など泊りがけで行くこともありました。

山谷(さんや)の問題はご存知ですか。

そもそも山谷を知らない方もいると思いますので、簡単に説明します。

東京都台東区に山谷地区があります。住所では台東区日本堤周辺の地域です。もともとドヤ街などと呼ばれる所で、工事現場などで必要な日雇い労働者が多くいました。そのための簡易宿泊所というのが多くあり、そこに寝泊まりして、早朝手配師と呼ばれる人たちが作業員を集めます。日雇いなのでけがなどすると仕事をすることができなくなってしまいます。また、日銭を稼いで、お金が続くだけお酒を飲み、なくなるとまた仕事を探す人もいます。仕事ができるうちは良いのですが、けがや病気で仕事ができなくなる、あるいはアルコール依存症にかかった挙句、路上生活者になってしまうことも多いです。こういったことを知った後で、聖書の「ぶどう園の労働者のたとえ」が深く理解できるようになりました。

ワークショップ形式の研修では、八ヶ岳山麓の長野県富士見村にあった、「高森草庵」での研修が一番体力的に厳しかったです。

この「高森草庵」はドミニコ会の押田神父様が、祈りと農作業のために作られたところです。

そこでは自給自足を目指しながら、祈りを中心においており、まるで修道生活をしているようでした。押田神父様に共感していたシスターもいて、ちょっとしたコミュニティーでした。

ちょうど伺ったのは田植えの時期、1年のうちでも一番とっていいくらい人手が必要な時期です。草庵は母屋のほかに、何人かが寝泊まりできるような小さな家がありました。また、聖堂と呼んでいる小さな家もありました

朝は5時起床で、5時半からミサだったと思います。その後、朝食を取り、農作業です。私はまったく農業の経験がないので、田植えは一から教えてもらうことになりました。養護学校に勤めていた時に腰痛になってしまい、農作業はきつかったです。

また、事務局の長島さんが障がいを持つカトリック信者で、詩人をしている火星雅範さんという方を誘いました。介助者としてお父さんも参加されましたが、かなりの高齢者ですし、火星さんは車いすです。全介助が必要な方です。研修生は私以外全員女性なので、結局私がほとんど介助をすることになりました。さらに施設も古民家といった建物ばかりなので、すべて人力で行なわなければなりません。これも腰にきました。

田植えは初体験でしたが、これほど大変だとは思いませんでした。まず田んぼの中を歩くこと自体が大変でした。水が張られた田んぼは泥地です。足を入れると泥の中に足が入って、抜けにくくなります。力を入れすぎるとバランスを崩して倒れそうになる中、稲を2、3本つかんで、田んぼに植えながら移動していくのは骨の折れることでした。まっすぐ後ろに歩きながら植えているつもりでも、いつの間にか蛇行してしまいます。

火曜日から木曜日まで3日間ずっと田植えしていました。途中、寒冷前線が通過し、雨が降り、上がった後に田んぼから水蒸気が上がっていくのを見て、自然というものを目の当たりにしました。

研修期間中、夕べの祈りをすることになっていました。参加者が交代でリーダーになりながら、祈りをしますが、私以外はシスターですので、所属している修道会の祈りをしたいようでした。決まった祈りの文を読んでいるだけなのですが、シスターは毎日やっていることをやると安心するようでした。私は、決まった祈り文を読むという習慣がないので、黙想的に自分への問いかけのようなことをするようにしていたのですが、シスターたちは落ち着かないようでした。きっと、部屋に帰って自分の修道会の祈りをやっていたことなのでしょう。祈りの難しさを感じましたし、また派遣された後の祈りをどうするかも自分の宿題になった気がしていました。

見沼区 斉藤



♪ オルガニストのつぶやき ♪

～ いっしょに弾きませんか ～

「祈るように弾けたら！！」

まだ始めて間もない孫のピアノのお稽古方法を見て驚きました。

何よりも感情を込めて弾くことを第一にしている事です。当たり前のことですが、昔は先ず指が動くように、チェルニーやハノンが先でした。だから未だに一拍目と三拍目が強くなりやすく、歌詞を考えると不自然に思う事度々です。(勿論音楽センスのある方は同じ教育方法でも、ちゃんと出来たのでしょうか)この間もTVで清塚信也さんがそれを指摘しておられ、納得でした。

最近はあまり出ていませんが、YouTube でイエスのカリタス修道会スモールクワイアの歌をちょくちょく耳にしました。どれもこれも心からの祈りだと伝わってくるものばかりで、苦しい時の助けとなったり、又よろこびをより深く感じたり。やはり内面からあふれているのでしょう。

ですから鍵盤の上で歌えるように、ましてミサの時ですから、神に向かって祈りとなる様に、スモールクワイアのシスター達に少しでも近づけたら、というのが今の願いです。

呼びかけに応じて下さる方が又一人現れ、オルガニストが二人から四人に。一挙に倍になり、気持ちも随分楽になりました。力を合わせて四人でオルガン奉仕ができる様になった事、神に感謝です。

見沼区 徳良

Gaudete in Domino sempre

iterum dico, gaudete

「主において常に喜びなさい。

重ねて言います。喜びなさい」

(フィリピの信徒への手紙 4章4~7節)

IN. I RBCKS
G Au-dé-ntē in Dō-mi-no sem-per: i-tē-rum
di-co, gau-dé-tē: mō-dē-sti-ā vē-strā nō-tā sit
Phil. 4, 4, 5; Ps. 84

待降節第3主日は「喜びの日曜日」。

アドベントキャンドル、神父様の祭服、ストラはピンク色を用い、クリスマス喜びが間近にせまっていることを感じさせられます。

私はこの箇所が好きで、グレゴリオ聖歌の旋律が頭の中で響きます。

元気がないときも、このフレーズを思い起こすと、背中を押されて励ましの声となってくれるのです。

コロナ禍に耐えて長い日々です。

こんなときどうやって喜ぶというのか、と思う方もいらっしゃるかもしれません。

誰も想定しなかったこの現実、当然だったコロナ前の生活のひとつひとつに感謝しつつ喜びをもってクリスマスを待ち望んでいるのです。

* * * * *

5月から徳良さんと呼びかけましたところ、見沼区の新海真理子さん、栗田隆子さんが応えてくださいましたので、この連載をひとまず終了します。

私達の祈りに応えてくださった神さまに感謝！

オルガニスト 高野 裕美

* 投稿を募集しております。FAX か郵送で受け付けております。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 カトリック大宮教会 広報部宛